

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	穴吹デザイン専門学校
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門	建築学科	夜・通信	200 時間	160 時間	
	インテリアデザイン学科	夜・通信	200 時間	160 時間	
文化・教養専門	商品企画デザイン学科	夜・通信	200 時間	160 時間	
	グラフィックデザイン学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	マンガ・アニメーション学科	夜・通信	240 時間	160 時間	
	CG・ゲーム学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.anabuki.ac.jp/pdf/hiroshima/jitsumu.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	穴吹デザイン専門学校
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.anabuki.ac.jp/pdf/fukuyama/riji.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	教育研究所長	令和3年5月26日～ 令和5年5月25日	教育に関する提言
非常勤	学校法人理事長	令和3年5月26日～ 令和5年5月25日	学校経営に関する提言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	穴吹デザイン専門学校
設置者名	学校法人穴吹学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>9月～10月頃に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催してカリキュラムの方針を定め、12月～1月頃に学科ごとにカリキュラムを作成する。</p> <p>2月頃に授業科目ごとに科目担当教員が来年度のシラバスを作成し、3月に学科会議により内容を協議のうえ最終決定し、4月に学生に配布するとともに学校ホームページで公表している。</p> <p>授業の概要、授業終了時の到達目標、使用する教科書教材、成績の評価基準と評価率、準備学習の指示等を明記している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://web.anabukih.ac.jp/info/information/

<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>①授業科目の成績評価は、学年末において各学期末に行う試験、演習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。</p> <p>②成績評価は、期末試験のほか、出席率・課題・レポートを参考として総合的に評価する。</p> <p>③評価基準は A,B,C,D の4段階とし、A,B,C を合格とする。 A(100～80点)・B(79～70点)・C(69～60点)・D(59点以下)とし、各科目で規定している出席率に満たない者は、当該科目の期末試験の受験資格を失い、D 評価になる。</p>	
<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。</p> <p>上記のことを電子版学生手帳に明記し学生に公開している。また、学校のWebサイトで一般公開も行っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>https://web.anabukih.ac.jp/info/information/</p>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

卒業の認定方針（卒業までに身につける能力を定めた基本方針）

【建築学科】

- ・ 建築を多面的な視野で捉え、関連する分野との連携に長けた円滑なコミュニケーションができる。
- ・ 社会の変化から未来を汲み取り、専門的な技術力をベースに価値ある場所を提案できる。
- ・ 積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。

【インテリアデザイン学科】

- ・ インテリアを多面的な視野で捉え、関連する分野との連携に長けた円滑なコミュニケーションができる。
- ・ 世の中の流れを敏感に察知し、人の暮らしにとって価値ある空間を提案できる。
- ・ 積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。

【商品企画デザイン学科】

- ・ 社会への分析的な眼差しで、編集的な視点から新しい価値を示す企画や商品を提案できる。
- ・ 造形やモノづくりのプロセスを学んだ体験からプロデュース能力を兼ね備えている。
- ・ 積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。

【グラフィックデザイン学科】

- ・ ニーズを汲み取るコミュニケーション能力を備えている。
- ・ 社会の変化に柔軟に対応し、多様な媒体を視野にデザインの企画や表現が提案できる。
- ・ 積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。

【マンガ・アニメーション学科】

- ・クライアントや取引先と仕事上のコミュニケーションが出来る能力を備えている。
- ・マンガ家・アニメーター・イラストレーター・作家として要求に応える技術を身に付けている。
- ・積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。

【CG・ゲーム学科】

- ・クリエイターとして主体的・継続的に創作への可能性を追求する姿勢を身に付けている。
- ・コンピュータグラフィックスを使ったコンテンツ制作の基本技術を備えている。
- ・積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。

卒業の認定について

校長の行う卒業の判定は学年末におこなう卒業・進級判定会議にて、試験、平素の成績、出席日数等により行う。

卒業条件

- ① 卒業制作を行っていること。
 - ② 成績評価がすべてC以上であること。
 - ③ 原則として年間総授業時間数の80%以上出席していること。
- 上記の条件をすべて満たした者は校長が卒業を認定する。

卒業判定会議

通年の評価において再試・追課題・指定当校の後なおかつD評価の者は卒業判定会議にかかるものとする。

上記について Web サイトで公開している。

卒業判定会議は議事録により適切な実施の確認を行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

学校ホームページ → 情報公開 →
3. 各学科等の教育 → 卒業の認定および
判定について ……内に 学科ごとに公開している。

<https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2019/hiroshima/nitei.pdf>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	穴吹デザイン専門学校
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.anabuki.ac.jp/pdf/fukuyama/kessan.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.anabuki.ac.jp/pdf/fukuyama/kessan.pdf
財産目録	https://www.anabuki.ac.jp/pdf/fukuyama/zaisan.pdf
事業報告書	https://www.anabuki.ac.jp/pdf/fukuyama/jigyohoukoku.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.anabuki.ac.jp/pdf/fukuyama/kessan.pdf

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	建築学科	○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,700 単位時間	540 単位時間 /単位	1,324 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1,864 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		32人	0人	2人	19人	21人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） 9月～10月頃に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催してカリキュラムの方針を定め、12月～1月頃に学科ごとにカリキュラムを作成する。 2月頃に授業科目ごとに科目担当教員が来年度のシラバスを作成し、3月に学科会議により内容を協議のうえ最終決定し、4月に学生に配布するとともに学校ホームページで公表している。 授業の概要、授業終了時の到達目標、使用する教科書教材、成績の評価基準と評価率、準備学習の指示等を明記している。

<p>成績評価の基準・方法</p> <p>(概要)</p> <p>学年末において、各学期末に行う試験、演習の成果、履修状況を総合的に勘案して評価し、履修を認定している。</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。</p> <p>上記のことを電子版学生手帳に明記し学生に公開している。また、学校のWebサイトで一般公開も行っている。</p>
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>卒業までに身につける能力を定めた基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築を多面的な視野で捉え、関連する分野との連携に長けた円滑なコミュニケーションができる。 ・ 社会の変化から未来を汲み取り、専門的な技術力をベースに価値ある場所を提案できる。 ・ 積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。 <p>卒業の認定について</p> <p>校長の行う卒業の判定は学年末におこなう卒業・進級判定会議にて、試験、平素の成績、出席日数等により行う。</p> <p>卒業条件</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 卒業制作を行っていること。 ② 成績評価がすべてC以上であること。 ③ 原則として年間総授業時間数の80%以上出席していること。 <p>上記の条件をすべて満たした者は校長が卒業を認定する。</p> <p>卒業判定会議</p> <p>通年の評価において再試・追課題・指定当校の後なおかつD評価の者は卒業判定会議にかかるものとする。</p> <p>上記について電子版学生手帳およびWebサイトで公開している。</p> <p>卒業判定会議は議事録により適切な実施の確認を行っている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>放課後にオフィスアワーを設け、授業科目や専門分野別の質問・相談に教職員が対応している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15人 (100%)	0人 (0.0%)	15人 (100.0%)	0人 (0.0%)
（主な就職、業界等） (株)池田建設・(株)河井建設工業・(株)中村工社・(株)ニムラ 他 住宅・建設業界 等			
（就職指導内容） 1年次から就職キャリアセンター職員による就職支援授業を実施。 2年次はチューターと連携した進路指導・サポートを実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ユニバーサルデザインコーディネーター3級 合格率100%			
（備考）（任意記載事項） 求人票を学生個人にメールにて配信し、求人情報の共有を図っている。 また、学内企業説明会を令和2年度は複数回実施。職業に出会い内定に直結する支援を実施している。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
28人	2人	7.1%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） アンケート実施により個々の問題点を把握し、チューターおよび、 カウンセラーなどによる面談を実施、指導履歴作成と情報共有。 また、経済的事情等や進路変更で就業が必要な場合はガイダンスや 支援機会の提供などを実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		工業専門	インテリアデザイン 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,700 単位時間	420 単位時間 /単位	1,556 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1,976 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		68人	1人	2人	21人	23人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>9月～10月頃に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催してカリキュラムの方針を定め、12月～1月頃に学科ごとにカリキュラムを作成する。</p> <p>2月頃に授業科目ごとに科目担当教員が来年度のシラバスを作成し、3月に学科会議により内容を協議のうえ最終決定し、4月に学生に配布するとともに学校ホームページで公表している。</p> <p>授業の概要、授業終了時の到達目標、使用する教科書教材、成績の評価基準と評価率、準備学習の指示等を明記している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学年末において、各学期末に行う試験、演習の成果、履修状況を総合的に勘案して評価し、履修を認定している。</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p> <p>上記のことを電子版学生手帳に明記し学生に公開している。また、学校のWebサイトで一般公開も行っている。</p>

卒業・進級の認定基準

(概要)

卒業までに身につける能力を定めた基本方針

- ・ インテリアを多面的な視野で捉え、関連する分野との連携に長けた円滑なコミュニケーションができる。
- ・ 世の中の流れを敏感に察知し、人の暮らしにとって価値ある空間を提案できる。
- ・ 積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。

卒業の認定について

校長の行う卒業の判定は学年末におこなう卒業・進級判定会議にて、試験、平素の成績、出席日数等により行う。

卒業条件

- ① 卒業制作を行っていること。
- ② 成績評価がすべてC以上であること。
- ③ 原則として年間総授業時間数の80%以上出席していること。

上記の条件をすべて満たした者は校長が卒業を認定する。

卒業判定会議

通年の評価において再試・追課題・指定当校の後なおかつD評価の者は卒業判定会議にかかるものとする。

上記について電子版学生手帳およびWebサイトで公開している。

卒業判定会議は議事録により適切な実施の確認を行っている。

学修支援等

(概要)

放課後にオフィスアワーを設け、授業科目や専門分野別の質問・相談に教職員が対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
18人 (100%)	0人 (0.0%)	16人 (88.9%)	2人 (11.1%)
（主な就職、業界等） アクタス広島・(株)崇心・(株)西建設計・(株)道下工務店 他 インテリア設計・住宅・雑化家具販売業界 等			
（就職指導内容） 1年次から就職キャリアセンター職員による就職支援授業を実施。 2年次はチューターと連携した進路指導・サポートを実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ユニバーサルデザインコーディネーター3級 合格率100%			
（備考）（任意記載事項） 求人票を学生個人にメールにて配信し、求人情報の共有を図っている。 また、学内企業説明会を令和2年度は複数回実施。職業に出会い内定に直結する支援を実施している。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58人	1人	1.7%
（中途退学の主な理由） 健康上の理由		
（中退防止・中退者支援のための取組） アンケート実施により個々の問題点を把握し、チューターおよび、 カウンセラーなどによる面談を実施、指導履歴作成と情報共有。 また、経済的事情等や進路変更で就業が必要な場合はガイダンスや 支援機会の提供などを実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門	商品企画デザイン 学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,700 単位時間	372 単位時間 /単位	1,424 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			1,796 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		24人	1人	1人	14人	15人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>9月～10月頃に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催してカリキュラムの方針を定め、12月～1月頃に学科ごとにカリキュラムを作成する。</p> <p>2月頃に授業科目ごとに科目担当教員が来年度のシラバスを作成し、3月に学科会議により内容を協議のうえ最終決定し、4月に学生に配布するとともに学校ホームページで公表している。</p> <p>授業の概要、授業終了時の到達目標、使用する教科書教材、成績の評価基準と評価率、準備学習の指示等を明記している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学年末において、各学期末に行う試験、演習の成果、履修状況を総合的に勘案して評価し、履修を認定している。</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p> <p>上記のことを電子版学生手帳に明記し学生に公開している。また、学校のWebサイトで一般公開も行っている。</p>

<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業までに身につける能力を定めた基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会への分析的な眼差しで、編集的な視点から新しい価値を示す企画や商品を提案できる。 ・ 造形やモノづくりのプロセスを学んだ体験からプロデュース能力を兼ね備えている。 ・ 積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。 <p>卒業の認定について</p> <p>校長の行う卒業の判定は学年末におこなう卒業・進級判定会議にて、試験、平素の成績、出席日数等により行う。</p> <p>卒業条件</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 卒業制作を行っていること。 ② 成績評価がすべてC以上であること。 ③ 原則として年間総授業時間数の80%以上出席していること。 <p>上記の条件をすべて満たした者は校長が卒業を認定する。</p> <p>卒業判定会議</p> <p>通年の評価において再試・追課題・指定当校の後なおかつD評価の者は卒業判定会議にかかるものとする。</p> <p>上記について電子版学生手帳およびWebサイトで公開している。</p> <p>卒業判定会議は議事録により適切な実施の確認を行っている。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>放課後にオフィスアワーを設け、授業科目や専門分野別の質問・相談に教職員が対応している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9人 (100%)	0人 (0.0%)	8人 (88.9%)	1人 (11.1%)
（主な就職、業界等） (株)キンキホーム・このみやグループ・(株)平山 他 不動産・服飾リフォーム・情報処理サービス業界 等			
（就職指導内容） 1年次から就職キャリアセンター職員による就職支援授業を実施。 2年次はチューターと連携した進路指導・サポートを実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） ユニバーサルデザインコーディネーター3級 合格率100%			
（備考）（任意記載事項） 求人票を学生個人にメールにて配信し、求人情報の共有を図っている。 また、学内企業説明会を令和2年度は複数回実施。職業に出会い内定に直結する支援を実施している。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
22人	3人	13.6%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） アンケート実施により個々の問題点を把握し、チューターおよび、 カウンセラーなどによる面談を実施、指導履歴作成と情報共有。 また、経済的事情等や進路変更で就業が必要な場合はガイダンスや 支援機会の提供などを実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門	グラフィック デザイン学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,700 単位時間	240 単位時間 /単位	2,420 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			2,660 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
110人		104人	1人	4人	16人	20人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
<p>（概要）</p> <p>9月～10月頃に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催してカリキュラムの方針を定め、12月～1月頃に学科ごとにカリキュラムを作成する。</p> <p>2月頃に授業科目ごとに科目担当教員が来年度のシラバスを作成し、3月に学科会議により内容を協議のうえ最終決定し、4月に学生に配布するとともに学校ホームページで公表している。</p> <p>授業の概要、授業終了時の到達目標、使用する教科書教材、成績の評価基準と評価率、準備学習の指示等を明記している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>（概要）</p> <p>学年末において、各学期末に行う試験、演習の成果、履修状況を総合的に勘案して評価し、履修を認定している。</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化（100点満点）し、合計した上でその平均点を算出する。</p> <p>上記のことを電子版学生手帳に明記し学生に公開している。また、学校のWebサイトで一般公開も行っている。</p>

<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要)</p> <p>卒業までに身につける能力を定めた基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニーズを汲み取るコミュニケーション能力を備えている。 ・社会の変化に柔軟に対応し、多様な媒体を視野にデザインの企画や表現が提案できる。 ・積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。 <p>卒業の認定について</p> <p>校長の行う卒業の判定は学年末におこなう卒業・進級判定会議にて、試験、平素の成績、出席日数等により行う。</p> <p>卒業条件</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 卒業制作を行っていること。 ② 成績評価がすべてC以上であること。 ③ 原則として年間総授業時間数の80%以上出席していること。 <p>上記の条件をすべて満たした者は校長が卒業を認定する。</p> <p>卒業判定会議</p> <p>通年の評価において再試・追課題・指定当校の後なおかつD評価の者は卒業判定会議にかかるものとする。</p> <p>上記について電子版学生手帳およびWebサイトで公開している。</p> <p>卒業判定会議は議事録により適切な実施の確認を行っている。</p>
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>放課後にオフィスアワーを設け、授業科目や専門分野別の質問・相談に教職員が対応している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
40人 (100%)	0人 (0.0%)	36人 (90.0%)	4人 (10.0%)
（主な就職、業界等） (株)アスカネット・(株)トッパングラフィックコミュニケーションズ 他 グラフィックデザイン・webデザイン・印刷業界 等			
（就職指導内容） 1年次から就職キャリアセンター職員による就職支援授業を実施。 2年次はチューターと連携した進路指導・サポートを実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） Illustraorクリエイター能力認定試験スタンダード 合格率72.5%			
（備考）（任意記載事項） 求人票を学生個人にメールにて配信し、求人情報の共有を図っている。 また、学内企業説明会を令和2年度は複数回実施。職業に出会い内定に直結する支援を実施している。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
98人	2人	2.0%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） アンケート実施により個々の問題点を把握し、チューターおよび、 カウンセラーなどによる面談を実施、指導履歴作成と情報共有。 また、経済的事情等や進路変更で就業が必要な場合はガイダンスや 支援機会の提供などを実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門	マンガ・ アニメーション学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1,700 単位時間	320 単位時間 /単位	3,010 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
			3,330 単位時間 / 単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80人		67人	1人	3人	8人	11人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>9月～10月頃に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催してカリキュラムの方針を定め、12月～1月頃に学科ごとにカリキュラムを作成する。</p> <p>2月頃に授業科目ごとに科目担当教員が来年度のシラバスを作成し、3月に学科会議により内容を協議のうえ最終決定し、4月に学生に配布するとともに学校ホームページで公表している。</p> <p>授業の概要、授業終了時の到達目標、使用する教科書教材、成績の評価基準と評価率、準備学習の指示等を明記している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学年末において、各学期末に行う試験、演習の成果、履修状況を総合的に勘案して評価し、履修を認定している。</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p> <p>上記のことを電子版学生手帳に明記し学生に公開している。また、学校のWebサイトで一般公開も行っている。</p>

<p>卒業・進級の認定基準</p>
<p>(概要)</p> <p>卒業までに身につける能力を定めた基本方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クライアントや取引先と仕事上のコミュニケーションが出来る能力を備えている。 ・マンガ家・アニメーター・イラストレーター・作家として要求に応える技術を身に付けている。 ・積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。 <p>卒業の認定について</p> <p>校長の行う卒業の判定は学年末におこなう卒業・進級判定会議にて、試験、平素の成績、出席日数等により行う。</p> <p>卒業条件</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 卒業制作を行っていること。 ② 成績評価がすべてC以上であること。 ③ 原則として年間総授業時間数の80%以上出席していること。 <p>上記の条件をすべて満たした者は校長が卒業を認定する。</p> <p>卒業判定会議</p> <p>通年の評価において再試・追課題・指定当校の後なおかつD評価の者は卒業判定会議にかかるものとする。</p> <p>上記について電子版学生手帳およびWebサイトで公開している。</p> <p>卒業判定会議は議事録により適切な実施の確認を行っている。</p>
<p>学修支援等</p>
<p>(概要)</p> <p>放課後にオフィスアワーを設け、授業科目や専門分野別の質問・相談に教職員が対応している。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
20人 (100%)	0人 (0.0%)	17人 (85.0%)	3人 (15.0%)
（主な就職、業界等） (株)アウトソーシング・ダイキョーニシカワ(株) 他 製造業界 等			
（就職指導内容） 1年次から就職キャリアセンター職員による就職支援授業を実施。 2年次はチューターと連携した進路指導・サポートを実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） Illustra orクリエイター能力認定試験スタンダード 合格率81.0%			
（備考）（任意記載事項） 求人票を学生個人にメールにて配信し、求人情報の共有を図っている。 また、学内企業説明会を令和2年度は複数回実施。職業に出会い内定に直結する支援を実施している。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	1人	1.9%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） アンケート実施により個々の問題点を把握し、チューターおよび、 カウンセラーなどによる面談を実施、指導履歴作成と情報共有。 また、経済的事情等や進路変更で就業が必要な場合はガイダンスや 支援機会の提供などを実施。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		文化・教養 専門	CG・ゲーム学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
			290 単位時間 /単位	2,630 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位	0 単位時間 /単位
2年	昼間	1,700 単位時間	2,920 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
70人		68人	0人	2人	8人	10人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <p>9月～10月頃に学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会を開催してカリキュラムの方針を定め、12月～1月頃に学科ごとにカリキュラムを作成する。</p> <p>2月頃に授業科目ごとに科目担当教員が来年度のシラバスを作成し、3月に学科会議により内容を協議のうえ最終決定し、4月に学生に配布するとともに学校ホームページで公表している。</p> <p>授業の概要、授業終了時の到達目標、使用する教科書教材、成績の評価基準と評価率、準備学習の指示等を明記している。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <p>学年末において、各学期末に行う試験、演習の成果、履修状況を総合的に勘案して評価し、履修を認定している。</p> <p>学科ごとに成績分布状況を把握するため、半期終了時点で履修した全ての科目についてシラバスに記載されている評価基準に基づき点数化(100点満点)し、合計した上でその平均点を算出する。</p> <p>上記のことを電子版学生手帳に明記し学生に公開している。また、学校のWebサイトで一般公開も行っている。</p>

卒業・進級の認定基準

(概要)

卒業までに身につける能力を定めた基本方針

- ・クリエイターとして主体的・継続的に創作への可能性を追求する姿勢を身に付けている。
- ・コンピュータグラフィックスを使ったコンテンツ制作の基本技術を備えている。
- ・積極的かつ謙虚に自分の個性を組織や社会の中で活かす意欲を持っている。

卒業の認定について

校長の行う卒業の判定は学年末におこなう卒業・進級判定会議にて、試験、平素の成績、出席日数等により行う。

卒業条件

- ① 卒業制作を行っていること。
- ② 成績評価がすべてC以上であること。
- ③ 原則として年間総授業時間数の80%以上出席していること。

上記の条件をすべて満たした者は校長が卒業を認定する。

卒業判定会議

通年の評価において再試・追課題・指定当校の後なおかつD評価の者は卒業判定会議にかかるものとする。

上記について電子版学生手帳およびWebサイトで公開している。

卒業判定会議は議事録により適切な実施の確認を行っている。

学修支援等

(概要)

放課後にオフィスアワーを設け、授業科目や専門分野別の質問・相談に教職員が対応している。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
38人 (100%)	0人 (0.0%)	28人 (73.7%)	10人 (26.3%)
（主な就職、業界等） (株)スター広島支社・(株)デジタルワークスエンターテインメント 他 ゲーム・映像制作業界 等			
（就職指導内容） 1年次から就職キャリアセンター職員による就職支援授業を実施。 2年次はチューターと連携した進路指導・サポートを実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） CGクリエイター検定ベーシック 合格率97.4%			
（備考）（任意記載事項） 求人票を学生個人にメールにて配信し、求人情報の共有を図っている。 また、学内企業説明会を令和2年度は複数回実施。職業に出会い内定に直結する支援を実施している。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
74人	1人	1.4%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） アンケート実施により個々の問題点を把握し、チューターおよび、 カウンセラーなどによる面談を実施、指導履歴作成と情報共有。 また、経済的事情等や進路変更で就業が必要な場合はガイダンスや 支援機会の提供などを実施。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
建築学科	140.000 円	980.000 円	110.000 円	各学科の「その他の費用」は実習・行事費
インテリアデザイン学科		980.000 円	110.000 円	
商品企画デザイン学科		990.000 円	110.000 円	
グラフィックデザイン学科		990.000 円	90.000 円	
マンガ・アニメーション学科		990.000 円	90.000 円	
CG・ゲーム学科		1.000.000 円	150.000 円	
修学支援 (任意記載事項)				
学費免除の奨学金制度、高資格・検定取得者への奨学金制度、遠方からの入学生に対する奨学金制度、親族入学優遇制度にて修学支援を実施。				

b) 学校評価

<p>自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/adh/adh-rating-2.pdf</p> <p>自己評価委員会は毎年11月に実施。(令和2年度は2020年12月に実施) 議事録は事務所内で希望者全員に閲覧可能な状態としている。</p>
<p>学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主な評価項目 (1) 教育理念・目標 (2) 学校運営 (3) 教育活動 (4) 学修成果 (5) 学生支援 (6) 教育環境 (7) 学生の受入れ募集 (8) 財務 (9) 法令等の遵守。 ・評価委員会の構成 委員の定数 5人 (当該学校の教職員を除く) 委員の選出区分 (地域、学校、企業等、卒業生、保護者) ・評価結果の活用方法 評価結果を反映した、職業に必要な実践的かつ専門的な能力がより修得できる改善計画を立案し、PDCAサイクルを回し続ける。 各年度の2月、校運営会議等で翌年度の実施案を策定する。 よに

学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
町内会 会長	令和2年11月1日～ 令和3年10月31日	地域
高等学校長	令和2年11月1日～ 令和3年10月31日	学校
企業 代表取締役	令和2年11月1日～ 令和3年10月31日	企業等
同窓会 会長	令和2年11月1日～ 令和3年10月31日	卒業生
保護者会 会長	保護者会会長の在任 期間中	保護者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)		
https://www.anabuki.ac.jp/pdf/2020/adh/adh-rating-3.pdf		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)</p> <p>https://web.anabukih.ac.jp/</p>

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	穴吹デザイン専門学校
設置者名	学校法人穴吹学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		40人	38人	41人
内 訳	第Ⅰ区分	23人	24人	
	第Ⅱ区分	-人	-人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				41人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）
の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給
付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより
認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	-人	-人	0人
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	-人	-人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。